



古道を訪ねて⑫

箕面街道・

平尾（箕面）地区



「中の坂」から南へ約100m進むと、左手に箕面文化センターがあります。街道に面した西側の入口の脇に、自然石に文字を刻んだ大小2基の道標が並べて保存されています。



本来、これらの道標は、街道に沿って流れる水路のなかにありましたが、昭和52年、箕面駅前の再開発の際に現在の場所へ移転されました（地図参照）。

道標が元々あった場所は、箕面街道と巡礼道（西国23番

札所「勝尾寺」と24番札所「中山寺」を結ぶ古道）の交差点の脇でした。旅人が道に迷わないように建てられた2基の道標のうち、小さな方には「すく（ぐ）中山 是より二里半」の文字が刻まれています。勝尾寺から中山寺へ向かって東から歩いて来た巡礼のために、すぐ（真っ直ぐ）に進めば二里半（約10km）で中山寺へたどり着けることを示しています。また、大きい方の道標には、東西南北各地への方向と距離や、建てられた年月などが刻まれています（下図参照）。

安永8（1799）年、旗本「青木氏」の所領であった平尾（今の箕面市箕面）の代官「寺井新十郎」が建てたこの道標は、牧の荘（平尾・西小路・牧落・桜地区）から、京都へ十里（40km）箕面の滝へ半里（2km）池田へ一里（4km）大阪城へ五里（20km）であることを表示して

います。

余談ですが大阪の『阪』の字は江戸時代には「坂」が使われていました。ところが、この道標は江戸時代の安永8年の建立ですが『阪』になっています。間違っているかもしれませんが、石に刻まれた最古の「大阪」の文字がここに残されています。

